

榆方式構造化・子どもにわかりやすい療育の取り組み

～ 榆の会発達支援センターの実践～

榆の会に通う全ての子ども達にとって、先の見通しが持てるようになることは、子ども達自身が安心して療育を受けることができるようになるための、重要な課題です。

なぜかと言うと、人間は誰でも先の予定が分かっていると、心が安定し心構えを作りやすくなり、先の事への対処がしやすくなるからです。逆に、先の見通しがつかないと次に何をすれば良いのか迷い、おろおろして心が不安定になり、やる気が出にくくなります。

療育の取り組みの中で、子ども達が先の見通しをもてるような、わかりやすい環境を整備していくことが、子ども達の学びと発達をはぐくみ、自立を促す鍵となります。

子ども達の発達の支援をするツールや技術には、様々なものがあります。

自閉症児の療育における『TEACCH療法』が多くの人に認知されるようになり、「構造化」・「ワークシステム」・「視覚支援」などの言葉もよく目や耳にするようになりました。

ここ榆の会発達支援センターは、クラスを単位とする、集団の療育を基本とし、担任2名が1クラス10～15人の母子又は単独児の療育活動を行っています。担任はクラス児の個別プログラムを作成し、それを基本に一人一人を大事にして療育にあたっています。

集団の療育には集団ならではの、個別支援に代わる、時にはそれに勝る子ども達の相互関係から生まれる療育効果があります。集団の中で、個々の子どもたちがまわりの状況を見たり聴いたりして理解し易くなるようにセットアップする事は、非常に重要です。

子ども達がわかりやすい環境を作る事を構造化と言います。

榆の会の療育にあたる保育士・指導員は、『TEACCH療法』の「自閉症の特性を理解した支援をし、自立に向けてのサポートをする」という理念と用語を借りて、個々の子ども達の特性に応じつつも、楽しく集団で活かせる様々な環境整備、つまり『榆式構造化』を行っています。

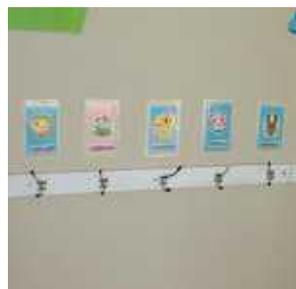
ツールや技術にとらわれず、「子ども達が楽しく生活できるための『榆式構造化』」・・・**わかりやすい環境整備（設定）**・**やりやすい環境整備（設定）**を目指して、試行錯誤、様々な取り組みを行っています。次に、榆式構造化の実践例をご紹介します。

榆式構造化の実践例

1. 視覚を利用してわかりやすく

1)【印やマーク、色で】

- ・オムツボックス・フック・棚のかご靴箱などに各自の印をつける。
- ・棚の中に赤テープで枠組みし、名前と各自の印をつけ歯磨きコップを入れる。
- ・各自の印のついたフックに、ピンクや



青のビニルテープを巻き、さらに色も目印とする。

- ・靴下ボックスに、靴下のマークをつける。
- ・椅子にも名前と自分の印をつける。
- ・待つ場所に『足あと』マークを貼る。
- ・男の子のトイレの立ち位置に『足あと』マークを貼る。



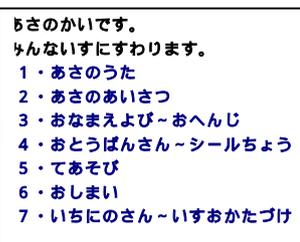
- ・シールを貼る前にカレンダーで、今日の日付（数字）を提示し、シール帳にはマークを付ける。
- ・シール帳の当日貼るスペースに赤ペンで目印を描き、『ここに貼る』手掛かりとする。

2)【写真や文字で】

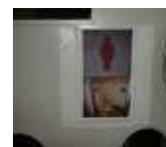
- ・シール帳の表紙に各自の写真を貼る。
- ・当番児は、写真を使ったペープサートを提示して意識付けする。
- ・一日の流れ・場所を写真と文字で提示する。
- ・一日の活動の流れ・今日の活動を写真と文字で提示。写真は取り外しできるようにし、次の活動を提示して切り替えを促す。



- ・登園後流れや朝の会の行動の順に①～の番号をつけて文字化し、表にして①・・・②・・・と声かけと共に提示し自発的な動きを促す。
- ・給食準備が自発的にできるように①カバン②エプロン・おしぼり
- ③給食トレイの写真を提示する。



- ・公園や散歩に行く時、行き先の写真の提示をする。
- ・外出行事は、下見時にコース内の建物・遊具・乗り物などを写真撮影して、事前に提示する。



- ・トイレ（絵・文字）カードとカードボックスの使用。
- ・字が読める子には『おかわり』『おちゃ』等の文字カードを使用しコミュニケーションの手段とする。
- ・活動のスケジュール表には、番号をふり文字で示し提示し、順を追って声かけ次の活動を促す。



3)【モデルや見本で】

- ・トイレのトレーニングの人形を使ったモデリング（抱き人形・排尿～水,排便～紙粘土）⇒《楡の会ホームページの発達研究センター報告 その9『障がい幼児のトイレトレーニング～人形を使ったモデリング～』を読んで見てください。》



- ・制作時、大きなサイズの見本を作り、導入で順を追って作ってみせたり、提示する。
- ・子ども達のシール帳の写真を拡大したものを見本とし、シールを貼る場所を提示する。

4)【具体物で】

・公園やお散歩に行くときの合図として、各クラスのカラー（いちご・もも・ばなな・・・など）の帽子やミニポシェット等を使用する。



・朝の会の名前呼びの際、より注目しやすくするための『まるい窓』の使用。（呼名に応じ子どもが半円の窓を開くと、担任と子どもの顔が向かい合う様にしたもの）



・時計を使用し、「長い針が〇のところまでいったら・・・」と示し次の行動をアナウンス。



・単独クラスの一斉トイレタイムは、男の子は緑、女の子は赤いゴム電車で（歌いながら）連なって行く。

・○×のカードの使用。

II. 聴覚的にやりやすく

・おはなし遊びは『でてこい』・親子遊びは『手をつなごう』・外に行く時は『身支度の歌』を歌って開始の合図とする。

- ・園内の移動は『線路は続くよどこまでも』・散歩中は『さんぽ』などの歌を歌う。
- ・制作・感触遊び・揺れ遊びも様々な歌を利用しながら活動する。
- ・お片づけの時、いただきますの時、歯磨きの時にも、それぞれの歌を歌う。
- ・意識付けが必要な時には、『パンツのはき方』の歌に合わせてパンツをはく。
- ・みんなで集合する時は、必ず「まるくなれ～」の歌に合わせて集まり手をつなぐ。
- ・活動の終わりは「これで～は、おしまい！」と、おしまいのサインと共に声かけを行う。
- ・次の活動への移行時は「おててはパー。いちにのさん！」という掛け声と共に手を叩く。
- ・行動のスタート時、注意を集める時は「(5・4)・3・2・1～！」の掛け声をかける。
- ・活動終了の合図に目覚まし時計を使用する。
- ・キッチンタイマーの音が鳴ったら、おしまいの合図とする。
- ・常に次の行動（一つ先 or 二つ先）のアナウンスを行う。

III. 物理的に実行しやすく

- ・棚に靴下ボックスの設置（靴下を脱いでここにいれる）
- ・朝の会の流れ（毎回、一連の流れが決まっている。いつもの場所でいつもの順番で）
- ・コーナー遊びの設定（室内を遊びのスペース・課題のスペースに分けて活動する。）
- ・トイレでの時間排尿（いつもの時間にいつもの場所でおしっこする＝時間的構造化）
- ・朝の会を部屋の角のコーナーを利用して行う。（視界を狭く、集中しやすく）
- ・帰りの会や食事の座席を決める。（ここに座っていつものことをやる。）

- ・毎月1回、同様の導入・素材の制作を継続。(テーマを決め、作品をアレンジしていく。)
- ・制作時、テーブルごとに作業を限定し、コーナーを順に回って作品を完成させる。
- ・週単位で毎回同じ療育活動を継続する。導入もアレンジを加えながら同様な事を継続。
- ・シール帳の片付け場所が分かりやすい様に、クラスごとに大きなシール帳ボックスを使用。
- ・ランチョンマット使用し、そこにのせた皿の上に盛ったものを順に食べていく。



楡ジェン (楡式ジェスチャーサイン)



楡ジェンは、楡の会式ジェスチャーサインの略です。楡の会の先生や子ども達の代替コミュニケーションスキルです。皆さんも覚えて使ってくださいね！

楡の会には、様々なハンディを持つ子ども達が通っていますが、見通しを持つことが難しい自閉症をはじめとする発達障害の子ども達にとって分かりやすい環境設定は、全ての子どもにとって、分かりやすいものとなるであろうと考えています。

ここにあげた実践例の中には、クラスの状況によっては実践していない例や幾つも重複して取り組んでいる例、又は集団の中でも個別の支援として取り組んだものもありますが、これからも、集団で楽しく実践でき、子ども達にとって分かりやすい『楡式構造化』の実践例を増やしていけるよう力を注いでいきます。